

部 長	岩 瀬 将 之
研究主任	本 多 裕 輔
部 員 数	5 0 名

1 研究主題

『主体的にコミュニケーション活動に取り組む児童・生徒の育成』
～求められる英語指導のために～

2 はじめに

数年来、小・中学校の円滑な接続を目指し、授業での言語活動の内容、指導方法等について検討してきた。昨年度の小学校の新学習指導要領実施、今年度は中学校でも新学習指導要領が実施されたことにより、小学校での英語の教科化や中学校での学習内容の増加に向けて、部員の授業力向上や小中学校のさらなる連携が求められるようになった。

小牧市英語教育研究会では、英語を使ったコミュニケーションができる人材の育成を目指している。とりわけ「話すこと」については、国際社会の中で活躍し、対等にわたりあう力を日々の授業でつけることを目標にしている。今年度、上記研究主題に関連し、新学習指導要領による授業が始まった小学校・中学校のそれぞれの課題をもって、授業実践についての情報交換や小中学校の連携を主な活動として研究に取り組みたいと考える。

3 研究経過

研究主題に沿って、各部員の勤務校において各校の現状を踏まえた実践・研究を進めた。また、小牧小学校にて行われた研究会の時には、部員が目的ごとに班を編成し、話し合い活動を行った。なお、新型コロナウイルス感染症の影響で、研究会を計画したが実施できなかったときがあった。

- | | | |
|---------|------------|-------------------------------|
| (1) 第1回 | 令和3年4月20日 | 研究テーマ発表、研究主任・副主任選出 |
| (2) 第2回 | 令和3年5月11日 | 学年ごとの情報交換① |
| (3) 第3回 | 令和3年7月6日 | 実践発表①（味岡小）
中学校区ごとの小中情報交換会① |
| (4) 第4回 | 令和3年10月12日 | 実践発表②（味岡中） |
| (5) 第5回 | 令和3年12月7日 | 学年ごとの情報交換② |
| (6) 第6回 | 令和4年1月11日 | 中学校区ごとの小中情報交換会② |
| (7) 第7回 | 令和4年2月8日 | 令和3年度のまとめ |

4 研究の概要

(1) 情報交換会

部員を小学校班と中学校班に分け、中学校班はさらに所属学年別に分かれ、実践報告を2度行った。

情報交換会では、普段の授業における言語活動の持ち方、ALTとのチーム・ティーチングの在り方、定期考査や評価の在り方などについて話し合い、理解を深めた。小学校班においては、主に担任の授業中の動きについて話し合ったり、ALTの打ち合わせや校内での情報提供の仕方を確認したりするなどした。中学校班においては、教科書の進度の確認、文法項目や4技能5領域ごとの指導の仕方、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法などについて話し合った。

(2) 授業実践発表会

味岡小・味岡中各1名の部員が、授業での実践報告を行った。

小学校では、英語でおすすめの国を紹介する活動を行った。活動を通し、語句・表現を身につけるだけでなく、外国語の背景にある文化についての理解を深めたり海外の国についての概要をつかんだりする授業について発表された。旅行会社とお客さんという形で何度も練習できる活動の良さや、自分で作成したプレゼン資料の発表により何度も英語を工夫して話す姿が見られた。

中学校では、「英語の授業でのジャンプの課題」についての実践報告を行った。新出語彙や文法をペアで練習をするところからはじめ、自分自身や級友のことを表現する英文を書いたり、基本文をいかしたスキットづくりに取り組んだりした。英文日本語訳やディクテーションにおいては、ICT機器も活用しながら、英語の理解に関する協同的な言語活動をグループで行ったことで、英語の構成や微妙なニュアンス、聞き取りにくい音声という日本語表現と違った難しさに対して粘り強く学びに向かう姿が見られた。その後に、その実践報告で話された内容をもとに、班別で「ジャンプの課題」について話し合う時間を設けた。

(3) 中学校区ごとの小中情報交換会

同じ中学校区に所属する小学校・中学校の教員で班をつくり、学区の小中学校そろっての情報交換を行った。

小学校の教員からは、ALTと共同して行う授業の在り方や、担任が授業を進めていく上での課題などが話された。2回の情報交換が行われていく中で、「小学校で『話すこと（やりとり）』のスキルがしっかりとつけられたことによって、中学校でのスモールトークがうまくいっている」「中学校1年生における『書くこと』についての課題をうけ、小学校でも『書くこと』に挑戦させる環境をつくりたい」などの意見が見られた。

中学校の教員からは、「小学校での実践の在り方がよく理解できた」「小学校のようにALTを活用した授業を研究したい」などの意見が見られた。

5 今後の課題

本研究では、それぞれの部員が求められる英語の力をつけるための様々な指導の在り方を模索してきた。実践や情報交換を行っていく中で、英語でコミュニケーションをするための思考・判断・表現の力を子どもたちにつけることができたと感じている。

しかし、10月にエクセルのワークシートを使い、オンライン上で「今年度の授業での課題や困ったこと」の集計を行ったが、さまざまな課題が散見される。多く見られたのが、「評価の仕方が難しい」「教科書の文量が多く、理解に時間がかかる」「主に1年生において、新出語彙が多すぎて『書くこと』の指導がおぼつかない」などの課題であった。ほかにも、主に小学校における日本語が話せないALTと担任の打ち合わせの難しさという語学力に起因する問題、一人一台タブレットの活用、高校入試の変遷にかかわる授業の在り方など、英語教育を取り巻く環境の変化への対応も大きな課題である。